

## 1. 感染症速報（壱岐地区）

令和8年1月23日作成

2026年 第3週		1月12日 ~ 1月18日			作成:長崎県壱岐保健所 企画保健課				
疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り	疾患名	状況 定点当り
インフルエンザ		RSウイルス 感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性 レジ球菌咽頭炎		急性呼吸器 感染症(ARI)	
警報:開始30 終息10	5.33	警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始3 終息1	0.00	警報:開始8 終息4	0.00	警報:開始 - 終息 -	27.33
感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑 (リンゴ病)		※定点数3:インフルエンザ 新型コロナウイルス感染症 急性呼吸器感染症(ARI)	
警報:開始20 終息12	2.00	警報:開始2 終息1	0.00	警報:開始5 終息2	0.00	警報:開始2 終息1	0.00		
突発性発しん		ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)		新型コロナウイル ス感染症		※急性呼吸器感染症(ARI)とは、急性の上気道 炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す 病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、 新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A 群溶血性レジ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなど も含まれ、報告数は重複します。	
警報:開始 - 終息 -	0.00	警報:開始6 終息2	0.00	警報:開始6 終息2	0.00	警報:開始 - 終息 -	2.00		
	発生報告 なし		少数の発生あり		流行に注意 【注意報レベル】		流行中 【警報レベル】		

※警報レベル基準値は表示のとおり(-は設定なし)。注意報レベル基準値は、インフルエンザ:10 水痘:1 その他は設定なし。

## 2. トピックス

## ★インフルエンザに注意しましょう

長崎県内では第2週の患者報告数は945人で、定点当たり報告数は「18.53」となり、前週より増加し、警報レベルの報告数が9週間継続しています。

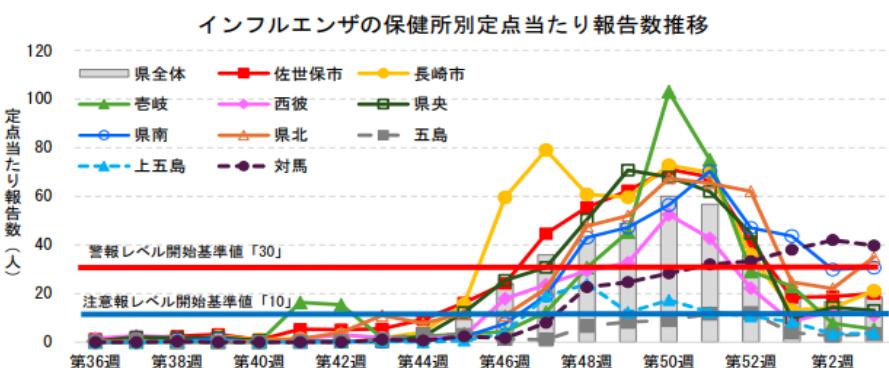
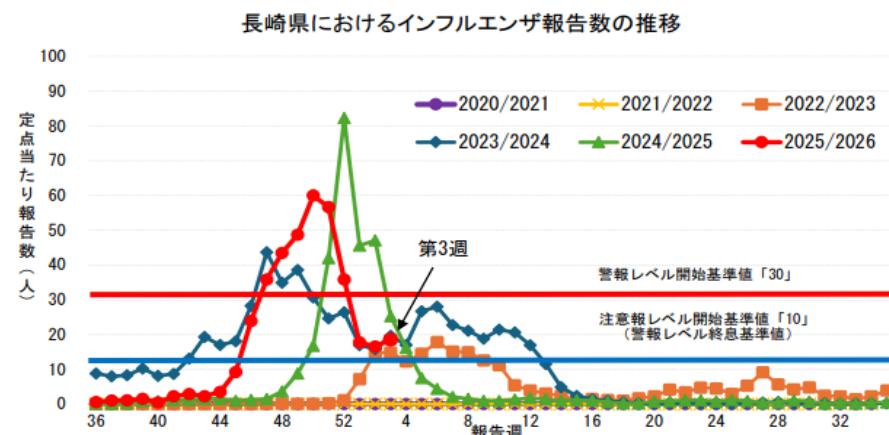
また、地区別にみると、10保健所のうち5保健所で警報レベル、2保健所で注意報レベルの報告数となっています。年代別では、10歳未満（50%）、10代（24%）が多くなっています。

壱岐地区においては、第2週に警報レベルではなくなりましたが、引き続き、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

◎長崎県感染症情報センターホームページ「インフルエンザ」もご覧ください。

©2025/2026シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等

(参考)厚生労働省「インフルエンザ総合ページ」



インフルエンザの年代別患者報告数									
	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
報告数(人)	474	232	55	56	36	36	30	15	11
報告割合(%)	50.2	24.6	5.0	5.0	3.0	3.0	3.0	1.6	1.3

## ★急性呼吸器感染症（ARI）に注意しましょう

急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection:ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎）または下気道炎（気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症などが含まれます。法律の改正により、令和7年4月7日からARIが5類感染症に位置づけられ、県内では51医療機関（ARI定点）から、1週間（月～日曜）にARIと診断された患者数が週に1回報告されています。

ARIに含まれるインフルエンザなどの感染症は、冬期に患者数が増加する傾向にあります。予防には、手洗いやマスク着用を含む咳エチケットなどの基本的な感染対策が有効です。ARIの中には、高齢の方や基礎疾患をお持ちの方が感染すると重症化するものもあります。場面に応じた対策を心がけましょう。

（参考）厚生労働省「令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策」

## ★感染性胃腸炎を予防しましょう

感染性胃腸炎は、12月以降に患者が増加する傾向にあります。本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因是ノロウイルスをはじめとするカリシウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。

例年冬期に患者数が増加するのがノロウイルスによる胃腸炎です。ノロウイルスの潜伏期間は1～2日で症状の持続期間は数時間～数日です。症状は他の胃腸炎ウイルスと同様に嘔気、嘔吐、下痢が主で、腹痛や発熱を認める場合もあります。乳幼児から成人に至るあらゆる年齢に感染します。

また、ノロウイルスは食中毒の原因としても検出されるウイルスです。ノロウイルスに感染した患者の手指から食品を介して感染します。

予防には、手洗いが重要です。手洗いを励行し、体調管理を行い、積極的な感染防止に努めましょう。

